

事務事業名		ピロリ菌検査による胃の健康診査				<input checked="" type="checkbox"/> 事後(中間)評価対象事業			
総合計画	政策名	安心安全な暮らしをささえるまちづくり				所属課	保健福祉課	担当	保健予防
	施策名	健康づくりの推進				課長名	柿沼勝廣	担当者名	柿沼澄子
予算科目		会計	款	項	目	事業	事業コード名	関係法令・条例等	
		1	4	1	2	1	成人健康診査費		
事業期間		<input type="checkbox"/> 単年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 26 年度)		<input type="checkbox"/> 期間限定 ( 年度~ 年度)			
事務事業の概要 (事務事業の内容を記載)		<p>1 事務事業概要</p> <p>胃がんのリスクとして考えられるものの最大のはピロリ菌と萎縮性胃炎であると考えられている。血液検査によりピロリ菌の感染のリスクと萎縮性胃炎のリスクを推し量ることができる。リスクの度合いにより4段階に分けて後のフォローがされる。毎年のレントゲン検査を受けるコストよりも、リスクの度合いにより2年後3年後の検査(内視鏡検査)に振り分けられるため、長い目で見るとコスト面で安価になるといわれている。一次健診・二次健診ともに被曝の問題もない。</p> <p>2 概算事業費(※ランニングコストが掛かる事業については、概算で算定し記入すること)</p> <p>一次検査(集団検診)委託料 約3,000円 二次検査については、医療保険対応となる。</p>							

(1) 事務事業の目的と指標		(4) 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
① 活動の計画(活動の量・大きさ・規模等)	胃の健康診査受診者数	名称	単位
② 対象(事業は誰・何を対象にしているのかを記載)	町民	ア 受診者数	人
③ 目標(この事業によって、対象をどうしたいのかを記載)	胃がんのリスクを持つ人に検診を受けてもらい、早期胃がんの発見につなげる。	イ 町民	人
		ア 早期胃がんの発見数	件
		イ	

(2) 指標・総事業費の推移		単位	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成32年度 総合計画 最終年度
活動指標	ア	目標値 人		300	300	300	300	200
	イ	実績値 人		164				
対象指標	ア	目標値 人		12,000	12,000	12,000	12,000	11,000
	イ	実績値 人		12,000				
成果指標	ア	目標値 件		10	8	6	6	4
	イ	実績値 件		0				

計画		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成32年度	
事業費 投入量	国庫支出金	千円						
	県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円		900	900	900	900	600
	事業費計(A)	千円	0	900	900	900	900	600
人件費	正規職員従事人数	人		2	2	2	2	2
	延べ業務時間	時間		20	10	10	10	10
	人件費計(B)	千円	0	80	40	40	40	40
トータルコスト(A)+(B)		千円	0	980	940	940	940	640

実績		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成32年度
事業費 投入量	国庫支出金	千円					
	県支出金	千円					
	地方債	千円					
	その他	千円					
	一般財源	千円		540			
	事業費計(A)	千円	0	540	0	0	0
人件費	正規職員従事人数	人		2			
	延べ業務時間	時間		20			
	人件費計(B)	千円	0	80	0	0	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	0	620	0	0	0

評価項目	説明	事前評価結果	実施後の状況	事後評価結果
目的妥当性評価 ① 公共関与の妥当性 なぜこの事業を町が行わなければならないのですか？税金を投入して、達成するものですか？	胃がんの早期発見に寄与されれば、医療費の削減につながり、がんによる死亡を少なくすることができる。	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり		<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり
有効性評価 ② 着手・実施の必要性 この事務事業をなぜ着手・実施しなければならないのか？先延ばしにできない理由は何か？	県内でも集団検診の中に取り入れている市町があり、また県内の8市では導入を決定している。塩谷郡市医師会でも強く導入を勧めている。	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり		<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり
効率性評価 ③ 総事業費の算定根拠 算定にあたってコスト削減策を考えたか？将来のコスト増要因に対して対策が考えられているか？	胃がんのリスクを押し量り、二次健診につなぐことで、リスクを持つ人が減少して行くことで、受診する人が減る。(ピロリ菌の感染は5歳くらいまでに完成し、下水道の発達により若年者には少ないといわれている。再感染はすくない。)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり		<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり
公平性評価 ④ 受益と負担との関係 事業の内容は受益と負担との公平性が考慮されているか？	国が推奨するがん検診はレントゲン検査であるので、レントゲン検査を否定するものではなく、受診を妨げるものではない。日本消化器学会としては近い将来には国もがん対策の1方法と認めるであろうという予測をもっているとのことである。	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり		<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり

### 3 事前評価結果

事前評価日： 平成 25 年 11 月 1 日

(1) 事前評価者として判断した今後の事業の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 1次案のまま採択 <input type="checkbox"/> 下記条件で採択 <input type="checkbox"/> 不採択 <input type="checkbox"/> 差し戻し	
(2) 採択条件	(3) 指示事項(事務事業に関する指示、事後(中間)評価日程等) ・塩谷郡市医師会で内容を統一して実施する予定

### 4 成果検証

事後(中間)評価日： 平成 27 年 7 月 31 日

事務事業実施後の概要 (実施しての効果、受益者等の反応、問題点、課題等を記載)	対象者(5歳刻み40から70歳)には、個人通知を送付した。対象外の方からは、希望の声が若干(2, 3件)上がったが、納得していただいている。受診者164名中要再検となった方が94名であった。再検査の結果がんの発見はなかった。ただし94名中再検査を受けなかった方が11名いた。これらの未受診者には、引き続き受診勧奨をしていく。
--	--

### (1) 評価結果(今後の方向性)

優(成果大)     良(良好)     可     不可(成果なし・中止・計画変更必要)

(2) 総評	(3) 指示事項 ・5歳ごとの検診で良いのかとの意見が出たが、当検診は、ABC検診(胃がんリスク検診と呼ばれるもので、ヘリコバクター・ピロリ菌に感染したことがない場合、5年に1回の検査でよいとされている。  <input type="checkbox"/> 再評価対象事業
--------	---